

## 送辞

厳しい冬の寒さも和らぎ、春の訪れを感じる本日、この武蔵大学を卒業される皆様、ご卒業おめでとうございます。在学生一同、心よりお祝い申し上げます。

皆様がこの武蔵大学に入学された四年前、世界はかつて経験したことのない混乱の中にありました。新型コロナウイルスの影響で、皆様の大学生活は全面的にオンライン授業からのスタートとなり、期待していた大学生活とは大きく異なるものだったことと思います。講義や友人との交流、課外活動までもが制限される中、どのように学び、つながっていくかを模索しながら過ごされた一年は、決して容易なものではなかったはずです。それでも皆様は、その困難を乗り越え、大学生活の第一歩を確かに踏み出されました。

2年次には対面授業が再開し、大学の風景には少しずつ活気が戻り始めました。しかし、それは単なる「元通り」ではなく、これまでの形を見直し、新たなスタイルへと変化していく過程でもありました。以前は当たり前だった大学、部活動、サークルでの行事や慣習も、続けることが難しいものがある一方で、新たな形で復活し、より良いものへと進化していくものもありました。その変革の中で、皆様はただ環境の変化に適応するだけではなく、自ら考え、工夫し、より良い大学生活を築いてこられました。

私たち在校生は、そんな皆様の努力の積み重ねの上に、今の大学生活を送っています。対面とオンラインが融合した新しい学びの形、活動の制限があったからこそ生まれた創意工夫、それらは私たちに受け継がれた大切な財産となりました。失われたものを嘆くだけではなく、その中で新たな可能性を見出す姿勢を、私たちは皆様から学ぶことが出来ました。

これから私たちは、皆様が築いてくださったものをさらに発展させ、より充実した大学生活をつくっていきます。そして、皆様もまた、新たな世界でそれぞれの道を切り拓いていかれることと思います。これから先、困難に直面することもあるかもしれませんが、この大学で得た経験と、共に過ごした仲間との絆が、きっと皆様の支えとなるはずです。

最後になりましたが、本日、こうして皆様の門出を見送ることができることを、心から嬉しく思います。皆様のご健康とさらなるご活躍をお祈りし、送辞とさせていただきます。改めまして、本日はご卒業、誠におめでとうございます。

令和7年3月22日  
社会学部 社会学科  
在学生代表 小濱 拓史